オカピ老齢個体の飼育管理における症例とその対応

正木　美舟

2013 年より 16 歳を越えたオカピの飼育に関わり、28 歳となる今日まで飼育してきたなかで、鼓腸症、軟便、体重減少、脱毛、角膜白濁の症例があったので、今後のオカピ老齢個体飼育の参考までに事例を報告する。

鼓腸症は、症状により対策も様々であった。2016 年 1 月に発生した症状は、日中から残餌が多く、採食激減、排便は 1 回のみでほぼ歩かなかった。対応として時間の許す限りのマッサージと浣腸を実施し、排便と飲水が促進された。また消化促進剤(経口投与、筋肉注射)、ビタミン剤投与、胆汁分泌促進剤及び経口での栄養補給を行った結果、4 日後徐々に改善した。原因は発症前日・前々日の蕾付きのビワの大量給与の可能性が高い。しかし、未熟な果実には微量の中毒性があるとされているが、蕾に関する記述は信憑性が低いため確証はない。2019 年 12 月に発生した症状は、朝から採食なく、両眼とも涙が泡立ち白眼がちとなり、頭は低位置で維持、四肢の震えがあり、背骨が浮き腹部は固くないが膨らんでいた。対応として、ヒーターの設定を 4 度上げ、腹部マッサージを実施、枝を食べやすいように低めに吊るした。その結果 3 日後にやや改善が見られた。原因は不明であった。2024 年 5 月の症状は珍しく採食、排便はあるにもかかわらず、腹部膨張であった。対応として、腹部マッサージ及び肛門刺激をするとガスが抜け、聴診でもガスの音がするため、ガス抜きを頻繁に実施した。また消化促進剤(以後常用)を経口投与し、マメ科のルーサンは半分以下に減量し、木の葉を多給した。原因は展示場でのシュウ酸を含むギシギシの採食と考えられた。

継続的な軟便は 2018 年 10 月～2019 年 4 月 12 日に発生した。原因は他個体とのルーサン給餌用ネットの共有による体内環境の乱れと思われた。これにより唾液が付着する物を他個体と共有することは、適当でないと判断した。

体重減少は 2017 年の軟便が散見された頃から減少し始め、2022 年には 250 kg程度で安定した。経過としては、軟便が継続していた 2018 年は－10kg、その後軟便解決後も低体重が続いていた。原因は不明だが、軟便と採食量減少の時期であった。25 歳と高齢のためか、2021 年 5 月以降茎の多いルーサンを採食しない為、採食量減少の対応として茎を取り除き、ヘイキューブも小さくしたところ、採食が安定した。

脱毛は 2017 年 9 月、2018 年 8 月、2023 年 4 月より発生した。原因は他個体の接触と垢の蓄積と思われる。対応としては、他個体との接触は網を設置して防ぎ、抗真菌薬や感染症に対するステロイド剤、ワセリン等を塗布し、その結果 1～3 か月ほどで症状が改善した。垢は早期に濡れタオルで拭いて除去することが効果的であった。

角膜白濁は 2017 年 3 月、2018 年 7 月に発生した。対応としては、点眼と内服を実施し、約 1 か月で改善した。原因としては、高齢化のため反射が遅く、枝で眼を傷つける傾向あると考えられる。

流涙は 2022 年 7 月、2024 年 5 月に発生した。症状としては、流涙が止まらず、常に頬も濡れた状態が続いた。対応として点眼の結果、1～2 か月で改善した。代番者も柵越しに点眼することで、改善速度が上がった。原因は不明だが、上記同様、反射の遅れにより目を傷つけた可能性が高い。